

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【公開番号】特開 2006-81609 (P2006-81609A)

【公開日】平成 18 年 3 月 30 日 (2006.3.30)

【年通号数】公開・登録公報 2006-013

【出願番号】特願 2004-267032 (P2004-267032)

【国際特許分類】

A 6 3 F 13/00 (2006.01)

A 6 3 F 13/10 (2006.01)

A 6 3 F 13/12 (2006.01)

G 0 6 F 21/24 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 13/00 A

A 6 3 F 13/10

A 6 3 F 13/12 C

G 0 6 F 12/14 5 6 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 23 日 (2007.8.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記キャラクタの属性情報は、キャラクタのゲームの習得度を示すレベルであり、各レベルには、付与可能なアイテムが予め設定されており、

前記判別ステップは、前記情報変化ステップによって変化されたキャラクタの属性情報に対して、所有不可能なアイテムを前記キャラクタが所有しているとき、当該アイテムが不正に取得されたものと判別する、請求項 6 に記載のゲームプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

好ましい実施の形態によれば、前記キャラクタの属性情報は、キャラクタのゲームの習得度を示すレベルであり、各レベルには、付与可能なアイテムが予め設定されており、前記判別ステップは、前記情報変化ステップによって変化されたキャラクタの属性情報に対して、所有不可能なアイテムを前記キャラクタが所有しているとき、当該アイテムが不正に取得されたものと判別するとよい（請求項 7）。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

ディスク 3 5 には、ゲームのゲームプログラムや種々のデータが記録されている。この

ゲームシステムでは、オンラインゲームが実行可能なオンラインモードと、ネットワーク回線 2 には接続せずにゲーム装置 3 及びその周辺装置（モニタ 3 3 等）を用いてゲームを楽しむオフラインモードとが準備されており、ディスク 3 5 には、主としてオフラインモード用のゲームプログラムが記録されている。このゲームプログラムには、ポリゴンデータ及びテクスチャデータによって構成され、ゲーム画面を構成するキャラクタ画像データや背景画像データ等の 3 次元画像データや、ゲーム進行上の状況等を表すデータ、BGM や各種効果音として用いられる音声データ等が含まれている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

サーバ 1 は、装備アイテムが不正に取得されたものであると判別したとき（S8：YES）、ハードディスク装置 1 4 に、その内容、その時点の時刻及び当該ゲーム装置 3 を使用するユーザの ID 等を不正情報として記録する（S9）。このように、不正情報としてハードディスク装置 1 4 に記憶するのは、後にこのゲーム管理者等が不正者を人為的に確認するためである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0069

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0069】

このように、ユーザの中には、専用ツール（データ改ざん装置等）や専用ソフトウェアを用い、不正にデータを改ざんする者がおり、その者がオンラインゲームに参加しようとした場合には、各ユーザから送られるミニデータを参照し、そのミニデータに含まれる、ゲームレベル及び装備アイテムのデータの関係に基づいて、不正に取得された装備アイテムのデータを検出することができる。従来の構成では、複製された装備アイテムのデータを検知することしかできず、改ざんされた装備アイテムのデータを検出することができなかったが、本実施形態では、それを確実に検出することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0074

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0074】

また、上記制御処理では、ステップ S6 においてゲーム装置 3 からのミニデータの有無を判別していたが、これに代えて、ミニデータの有無にかかわらず、不正検出プログラムを強制的に起動させるようにしてもよい。